

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 11月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	4270103239
法人名	医療法人 平田クリニック
事業所名	グループホーム東望の里
所在地	長崎県長崎市田中町879番地 (電 話) 095-838-7133
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年10月23日

【情報提供票より】（平成20年9月11日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成15年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 9人, 非常勤 8人, 常勤換算 14人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3階建ての 2 ～ 3 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	29,700	円	その他の経費（月額）	円
敷金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 980 円			

（4）利用者の概要（ 9月 11日現在 ）

利用者人数		18 名	男性 1 名		女性 17 名
要介護 1		4 名	要介護 2		4 名
要介護 3		7 名	要介護 4		3 名
要介護 5		0 名	要支援 2		0 名
年齢	平均	85.5 歳	最低	75 歳	最高 94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	(医)平田クリニック (医)山田医院 (医)千綿病院 (医)林田歯科医院
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い国道を1本入った風光明媚な高台の住宅街に位置し、施設内の各部屋からは自然の四季折々の景色が楽しめる。また、すぐ側にはスーパーや公園、学校、教会などがあり、生活に密着した環境である。施設母体が医療法人であり、建物1階部分にディサービス、2階3階部分がグループホームになっており各々の医療面や機能訓練施設利用等、連携に優れている。施設長自らが何事にも取り組む姿勢があり、職員も利用者への思いをたくさん持った方ばかりで、お互いが相談しながら利用者の対応にあたっている。“人間としての尊厳を大切にし、家庭的な雰囲気の中で個性を生かし、日常生活の支援”という理念が職員の利用者への対応の要所所で見受けられ、暖かく寄り添う支援が成されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回の外部評価の主な改善点である、運営推進会議の2ヵ月毎の開催に向けて改善努力をしているが、今年度、まだ1回しか開催されていない。運営推進会議の意義を中心に参加メンバーで話し合いが行われ次回につながる努力が成されていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価は職員間で話し合いがされ施設長と管理者が主に作成していた。施設長をはじめ職員は自己評価の意義を、自分自身を見つめ直すのに良い機会として受けとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は1回開催。参加メンバーは自治会連合会長、民生委員、地区の自治会長2名、老人会会長、包括支援センター、地区代表、利用者代表、施設長、各階管理者、ケアマネージャーである。内容は外部評価の結果報告やホームと地域との交流方法等である。今後の推進会議開催の検討や、市民清掃に利用者や職員で参加するなどの取り組みがされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 普段から話しやすい環境づくりがされており、面会時に意見や要望がある時は記録帳に記載して、施設長と相談のうえ素早く対処して家族に報告するなど、家族の安心感に繋がっている。また利用者の日々の暮らしや出来事を写真付きの便りで送付されており、利用者の写真の表情からも楽しい生活ぶりがうかがえ、家族の信頼に努めていることが確認できた。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地域の自治会長や民生委員が協力的で、地域の祭りやホーム開催の祭りなどの応援態勢ができています。運営推進会議の中でも地域方から積極的にホームの状況を聞いてきたり、交流についてのアドバイスがあり、介護の知識を教えて欲しいなどの要望もでています。また日常の散歩や買い物、教会のミサにも参加するなど交流に努めていた。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの事業者独自の理念を基に運営推進会議の中で、グループホームと地域との関わりについて話し合いが行われている。家庭的な中で、人間としての尊厳、個性を活かした日常生活の支援をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の入り口に掲示しており、職員は毎朝のミーティング時に理念の唱和を行い、共有している。日々の介護の中でも、確認や何かあればその都度日誌に記入して、皆で共有する取組がなされ、理念である利用者の尊厳を第一に職員一人ひとりが取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間行事が作成されており、その中では自治会長の協力で地域のくunchをホームにて披露してもらっている。事業所側としては、東望祭りを開催しチラシを配布して参加を呼びかけ、婦人部参加に繋がった。また市民清掃では、自治会長の働きかけで職員、利用者も参加し地域の方との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価においては職員間で話し合い、解らないことは施設長と相談し、施設長と管理者で作成している。外部評価は改善点を職員はじめ、運営推進会議の中でも報告して議題に取り上げ、改善に向けて取り組みの努力をしている。		

グループホーム東望の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今期1回開催。構成委員は自治会連合会長、民生委員、地区の自治会長、老人会長、包括支援センター、地区代表、施設長、管理者、ケアマネージャー、利用者である。内容は外部評価の結果報告や、ホームに関する質問やアドバイスなど地域との交流に繋がってはいるが、参加者の時間調整が困難で家族の参加等、実現していない状況である。	○	前年度の改善事項である開催頻度と利用者家族の参加について、行事についての家族参加は多いので会議開催をその前後に行う等、工夫され開催頻度を増やし、より参加者との交流を深めた会議開催に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れなどで定期的に年2回顔合わせをしている。相談事や要望があれば、その時話をしている。市町村からは感染症などについての情報が便りとして送付されてくる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が頻繁なので、面会時に利用者の日々の様子や健康状態、出来事などを話しており、遠方は電話での報告や、月1度の立替金の請求書を出す際に行事風景の写真、診療報告などを同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が頻繁なので、職員とのコミュニケーションがとれている。面会時には利用者の日々の状況や家族からの意見、要望が言いやすい雰囲気作りがされており、意見や要望を感じたときは連絡帳に記録し、職員で共有し、どう対処したかの報告もされている。また普段の会話の中でも不満や苦情が察知できるよう、支援する職員が気を配っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあまりないようにしている。離職する場合は通常3人態勢のところを4人にするなどして、利用者のダメージが少なくすむよう配慮されている。利用者が馴染むまでは職員全員で、環境作りや、互いの思いやりを大事にするなどの努力がされており、利用者と共に家族への安心感に繋がっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年内の研修計画を作成し、施設長が必要と思われる研修は受講促進したり職員の希望研修にも参加でき、月に1度のカンファレンス時に研修報告が行われ共有化されている。しかし有料の外部研修には参加が難しい。施設長自らが、自分を始め職員のスキルアップの必要性を感じており、今後、代表一人でも参加できるよう運営者へ相談するなどの取組が期待される。	○	施設長、管理者とも外部研修の必要性を感じており、代表1名でも参加の機会を多く作る体制を整え、個別の年間計画などを立て、新人職員の成長と中堅職員の段階的育成が行われることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して交流を図っている。同業者が集まる勉強会「四水会」にはなるべく参加し、顔見知りになることによる情報の交換や交流の場としている。他のグループホームによる見学の受け入れはあるが、他のグループホームへの見学を検討するなど努力が成されている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居決定までに待機記録があり、入居時には施設長、ケアマネージャー、管理者が自宅を訪問して面接しカンファレンスを行う。入居後は利用者の側に寄り添い常時声かけや会話をし、解らないことは家族に聞いたりしながら馴染むための配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者個々に合わせた作業や手伝いをしてもらっている。洗濯物たたみ、花の水やり、お米作りのできる人から皆で習い一緒に作ったりもしている。又悲しい事や何かあるときは一緒に沿い寝したり、逆に利用者から励まされたりと支え合う関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日常会話の中より聞いたことや気づいた事は口頭なり、連絡帳に記載して把握している。言葉など不自由な方は態度や表情、雰囲気にて察知して対応する努力がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	事前に利用者や家族の意見を聞き、入居して2週間を目安に介護計画を作成し利用者の様子をみながら、その1ヶ月後、担当者会議での意見を反映した計画内容に調整を行っている。介護計画については家族の承認の署名・捺印が確認できた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは基本的に3ヶ月一度、内容については職員全体で月1回のカンファレンスを行っている。また利用者の心身の状態の変化や状況の変化に応じて、主治医等を交えて意見を交換し、家族の意見、利用者本人の気持ちに応じた見直しを行うようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の状況や要望に応じて他の医療機関への通院や送迎など必要な支援については柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努めている。また、利用者入院時の面会、早期退院支援、介護認定更新手続きの支援等も行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、協力医療機関をかかりつけ医としている方が多く、通院等の連携がとれている。歯科、眼科についても同様である。送迎については家族の送迎が基本であるが個別に家族と話し合い協力して通院等支援がおこなわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは早い段階で話し合いや同意書での確認を交わしており、協力医療機関からの支援体制も整っている。また、職員の対応についてのマニュアルが作成されており、方針共有が成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者への言葉かけは、食事やトイレ誘導時等、やさしく、丁寧であり、職員間でもミーティングを利用して意識向上を図っていた。記録等の個人情報については、保管場所が定められており、職員と誓約書を交わし、十分、配慮をおこなっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の流れは決めているが、その日の利用者個々の気分や健康状態で、散歩や買い物に連れ出したり、室内でゲームや歌を楽しんだり柔軟な対応が成されている。また生活歴を優先し、これまでの暮らし方を継続できるように心掛けている。場合によっては部屋での食事も可能で、その方のペースを大切にしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は明るいリビングで和やかに利用者、職員共に楽しんでおり、食後に他の利用者に口拭きのティッシュを配る利用者もおられる。利用者の状態に合わせて、刻み食等、食事形態の工夫がされている。職員はそれぞれの利用者の好き嫌いを把握しており、その日、嫌いなメニューがある利用者には代用食を準備し、そのメニューを居室に準備して日々の食事を楽しめる工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2回と決めてはいるが、他の日の入浴の希望時には日中できるかぎり対応している。入浴を拒否される場合には、声かけや対応を工夫している。また一人で入浴できる利用者へも見守りは欠かさず行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、畑仕事や毎日のスーパーへの買い物等、気晴らしになるよう支援している。特に鉢植えでの米作りは苗植えから収穫まで、利用者みんなの楽しみごとのひとつとなっている。利用者は役割を分けているわけではないが、日々の生活の中で花の世話や食事作り、洗濯たみ等、それぞれ自分のできることを自然に分かれて自主的にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の周囲は静かな住宅街で環境がよく、安全に散歩ができるコースである。玄関出ると車の通りもありなく、側に公園もあり散歩を楽しめる。また希望に応じてスーパーへの買い物支援などもしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は日中行われておらず、1階のデイサービスを含む、全職員が見守りを行い注意をしている。グループホーム内の造りも出入り口の見通しがよく、職員は鍵をかけることの弊害を理解している。		

グループホーム東望の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	消防署の協力による夜間想定火災訓練を年2回実施しており、消火器訓練も行っている。しかし、地域住民の参加による訓練は行われていない。また、火災のマニュアルは整備されているが、火災以外の地震や水害発生時にすぐに対応することが困難である。	○	今後、スプリンクラーの設置の計画もあり、調理場もIHを利用し設備面での努力はされているが、夜間や突然の場合に備えて運営推進会議で地域の方も避難訓練に参加されるよう積極邸に呼びかけ、実現するように期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況や量を観察し記録されている。水分も1日の摂取目標を決め、こまめに摂れるようにしている。水分を摂られない利用者にはゼリーにしたり、ジュースにしたり工夫している。カロリーやメニューについては医療機関の栄養士に指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は明るく窓からは四季折々の景色が感じられ、利用者が集う居間には季節に合わせた職員、利用者が共に作成した手作りの物が飾られ、家庭的な雰囲気作りがあちこちでみられた。音や光についても職員が調整を行い、利用者が自然でゆったりと過ごせる共用空間になっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居前の生活に近い部屋作りを心掛けており、それぞれに利用者の好みのものや、使い慣れたものなどがあり個性を出した居室に工夫がされている。各居室とも外の景色の移り変わりが感じられるような造りになっていた。また各々、トイレが設置され、不快な臭いが全くないように清掃されており、居心地よく暮らせる配慮が成されていた。		

※  は、重点項目。